



発明、特許、パテント？

川田 篤
弁護士・弁理士



「発明」と聞けば、発明王エジソンの蓄音機とか、ノーベルのダイナマイトなどが思い浮かぶのではないのでしょうか。愛媛の方であれば、ノーベル賞に輝いた愛媛出身の中村修二氏の青色発光ダイオードかもしれません。ただ、「特許」と聞くと縁遠い感じになり、早口言葉の「東京特許許可局局長」くらい印象でしょうか。まして「パテント」はどこのどこの一体

何のこと？」になりそうです。これまで、仕事の話はほとんどしませんでした。自分が弁護士として扱うものは、刑事弁護などはほとんどなく、もっぱら「知的財産」という、少しよく分からない代物です。「ゆるキャラグランプリ」の栄冠を目指す「みきゃん」も知的財産のうちといえば、多少は身近に感じるでしょうか。「ひこにゃん」の著作権をめぐり、めぐりなどもありました。東京オリンピックのエンブレムの騒動は記憶に新しいかもしれません。

と、その人だけが発明を独り占めできます。ほかの人が勝手に使えば、「やめなさい」。それでもやめなければ、弁護士が出てきて「訴えます」。とても物騒がせな代物です。「弁護士」と聞けば、また「ほらサスペンスとかに出てくる」とか何か反応がありそうです。それは「弁理士」というと、ややなじみが薄く、「便利？」とか聞き直されかねません。弁理士の主な仕事は「出願」の代理です。東京には数千人居ますが、愛媛には十人ほどです。出願するのはメーカー。愛媛の会社さんであれば、大王製紙さんとか、ユニ・チャームさんなどが熱心です。

ふるさと伝言

ありました。勤務先は大阪本社です。通勤先は毎週のように、ふりこ電車に揺られ、研究者と打ち合わせるため、新居浜の研究所まで行き来されているとのこと。妙に話が合いました。

今世紀に入り毎年のように日本人がノーベル賞を受賞しています。メード・イン・ジャパンをどんどん輸出していた元氣な時代の成果が、日月を経て評価され始めているのでしょうか。受賞者を見ると、北大、東北大、埼玉大、山梨大、名大、神大、徳島大、長崎大と地方の大学の卒業生が目立ちます。受験競争では、東大、京大が偏差値こそ高いかもしれませんが、戦後、間もなく、愛媛大のように、地方の県庁所在地に国立大学を設けた意義が、今や証明されたように感じます。我が国の未来のためにも、今後も地方の大学の潜在力を維持し、その活力を発展させてほしいものです。

(かわだ・あつし、本籍伊予市)